

11 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開 催 日 令和7年11月13日（木）
- 2 開 催 場 所 加古川市役所 北館4階大会議室
- 3 出席した委員 小南教育長、溝口委員、小林委員、土屋委員、中山委員
- 4 出席した職員 鹿間教育総務部長、松尾教育指導部長、
鷹津教育総務部次長、藤原教育指導部次長、
尾崎教育指導部学校教育担当参事、
井上教育指導部活動地域展開推進担当参事、
今津教育指導部教育支援推進担当参事、
真鍋教育指導部ダイバーシティ教育推進担当参事、
福本教育総務課長、大崎学務課長、横田学校施設課長、
岡本社会教育課長、岡本学校教育課長、
岡本教育支援課長、中倉中央図書館長、
中川こども政策課課長、沖本幼児保育課副課長、
窪田教育総務課副課長、竹内教育総務課管理調整係長
- 5 傍 聴 者 なし
- 6 議 事 の 要 旨
 - 開 会 午後1時58分
 - 会議録署名委員指名のこと
中山委員に決定
 - 10月定例教育委員会及び11月臨時教育委員会の会議録報告承認のこと
（事務局から会議録朗読報告）
10月定例教育委員会及び11月臨時教育委員会について、承認
 - 会議公開の可否決定のこと
協議事項1「加古川市立学校設置条例の一部改正に係る意見について」、協議事項2
「令和7年度12月補正予算に係る意見について」及び協議事項4「加古川市立加古川
図書館の指定管理者の指定に係る意見について」は非公開とすることに決定

(報告事項)

- 1 野口公民館リニューアルオープンについて
(教育指導部次長から説明)

(専決報告)

- 1 加古川市少年補導委員の解嘱について
(教育指導部参事から説明)

承 認

委 員 : 辞任の理由は何か。

事 務 局 : 委嘱後に体調を崩したためである。

委 員 : 後任は決まっているのか。

事 務 局 : まだ決まっていない。

(協議事項)

- 3 令和8年度加古川市公立学校教職員人事異動方針について
(教育指導部参事から説明)

原案可決

教 育 長 : ブロック制の導入理由について補足説明をしてもらいたい。

事 務 局 : 以前は希望校に偏りが見られ、異動に滞りが生じていた。ブロック制を導入することにより、広い視野を持ち様々な学校を回ってもらいたいという考えから導入した。

委 員 : 希望校の指名に差があったというのは、どういう点で差がついていたのか。人事が一番難しいことだと思うが、バランスよく全ての人の希望が叶うように、また、全ての学校が同じような人材となるように取り組んでほしい。

教 育 長 : 人事は課題となっているところである。加古川市の場合は10年以上同じ学校に勤務されている人も多かったが、在勤年数に関してはこの10年で是正できている。

一方で、学校間の偏りについては、勤務が大変であるという風評がある学校はなかなか異動希望がなく、ベテランの配置が難しい場合に新規採用職員や管外から転入した人を配置せざるを得ないような状況である。この部分の是正を図ることが人事の一番の課題だと思っている。適材適所となる人材配置のため、毎年改善を図っていかなければならない。

委 員 : 勤続年数について、上限9年を一つの基準としているが、学校の特色化や地域に根差すといった部分を強めていくことを考えれば、機械的に9年で異動してしまうことが果たして良いのか。部活動の地域展開もある。加古川市以外の事例だが、機械的な異動が逆効果になってしまった事例もあるように思う。

また、定年延長に関連して、通勤の労力についての配慮も今後必要ではないか。加古川市内には車の通りにくい道が多くある。教職員が高齢になった際に、車通勤で事故をしてしまう可能性も高まると思われる。考慮ができるかはわからないが、こういった部分も配慮事項となるのではないか。

事 務 局 : 勤続年数の上限は原則9年を区切りとして、学校には計画的に異動を考えて希望を出してほしいと伝えている。例えば、定年まで残り1年だが勤続9年を超えるため必ず異動しなければならないというわけではなく、個々の状況に応じて学校の管理職と協議しながら調整しているところである。

委 員 : 日本パラ陸上競技連盟の理事をしているが、女性で理事として活動できる人を探していると言われたことがある。

男女や年齢のバランスを考慮しながら異動を決めているのか。異動を決める際に重要視しているものは何か。

事 務 局 : 本人の希望や、性別や年齢も含めた管理職の要望それぞれをヒアリングしながら、充実した学校生活を送れるように配慮している。

委 員 : 両荘みらい学園の先生は着任当初に今までと勝手が違い、難しいところがあったと思う。今はどのような状態か。

事 務 局 : 両荘みらい学園は令和6年度から開校した小中一貫教育校だが、当初の人事配置を行う際に、小学校籍だが中学校の教員免許も持っている、あるいはその逆で中学校籍だが小学校の教員免許も持っている人材の交流も視野に入れて配置を行った。

運営する中で、小中学校の教員の交流に加え、児童・生徒間の交流も含めて特色ある教育を進めることができている。

教 育 長 : 両荘みらい学園の校長に聞いたところだと、多くの教員が子どもたちの9年間を見通して教育を進めることができるとのことであり、メリットであると考える。

○ 次期定例教育委員会予定日のこと

12月11日（木）午後2時から開催することに決定

○ 教育長諸報告

なし

○ 教育委員諸報告

〔小林委員から〕

(1) 兵庫県 PTA 連絡協議会について

兵庫県 PTA 連絡協議会に参加した。幼児期の子どもと親とのふれあいの時間が思春期以降の心の発達に大きく影響しているという話を聞き、私も幼児期の子どもがおり、非常に勉強になった。

先月、少年院で運動会があった際に、少年たちと一緒に弁当を食べながら話をしたが、彼らの実体験を聞いてやはり幼児期のふれあいは必要であると感じた。

共働きの家庭も多くなかなか親子の時間がとりにくい時代にはなっているが、同じような立場の親に対しても呼びかけや情報共有ができればと感じた。

〔中山委員から〕

(1) 講演会の開催について

令和8年2月26日に医師会で講演会を行う予定である。講師として平田オリザ氏に依頼をしているところだが、詳細はまだ決まっていないため、決まり次第また報告したいと思っている。

委員：先日、私も平田オリザ氏の演劇の効果に関する講演を聴いた。その講演の中で、祖父母の役目は『孫に文化的なものを見せてあげること・連れていくこと』と言われたのが印象的だった。

PTA の通信にでも少し書いておいてもらえたら喜ぶ人が多いのではないかな。

(2) 学校医の条件について

加古川医師会の理事の方で学校医について話題があがった。学校医が辞めるとなった際に後任を医師会で探している。加古川市では「現職の医師」であることが学校医の条件となっているが、将来的には学校医が足りなくなってくるのではないかな。杓子定規に限定するのではなく、閉院していても意欲のある方をお願いするなど検討してもらいたい。

兵庫県に学校医の条件について聞いてみたところ、県は医師免許さえあれば問題ないとしているようだ。全国的に学校医は不足しているため、考えてみてもらえればと思う。ちなみに県下では耳鼻科・眼科医が特に足りていないが、加古川市では比較的恵まれている。

〔土屋委員から〕

(1) 学校運営協議会について

氷丘中学校の50周年記念式典に参加した際に、学校運営協議会について、「発言しづらく、発言しても採用されない現状がある。一度見に来てほしい。」との声をいただいた。次回開催される際はオブザーバーとして参加しようと思っている。

他市町の教育委員と話をするときには、加古川市の学校運営協議会について尋ねられることが多く、注目されていると感じている。現状を知っておくためにも、他の地域の学校運営協議会についても見てみたいと思っている。他の委員の方も機会があれば参加してみてもどうか。

教 育 長 ： ぜひやってみていただきたい。現場を見て、課題や意見等いただきたい。

○ 教育総務部長諸報告

(1) 令和7年度中学校給食に関する生徒向けアンケートの結果について

令和7年度中学校給食に関する生徒向けアンケートの結果について報告した。

委 員 ： 弁当から給食に変わったことによって、食事のために確保している時間に変化はあるのか。どのくらいの時間を確保しているのか。

事 務 局 ： 中学校に関してあまり時間は変わっていない。昨年2月に校長へ喫食時間を20分は確保してもらいたいと伝えていた。この4月から給食の時間を5分伸ばしてくれた学校もあり、残食の減少につながっていると思う。今後も現場の状況を確認しながら検討していく。

委 員 ： 食に関して興味があり、食育アドバイザーの資格を取った。この時期の子どもたちは一番栄養をとらなければならない時期であり、重要性は伝えていかないといけないと思っている。

学校からの配布される保護者向けの連絡も読んで勉強させてもらっている。嫌いな食材ランキングは「魚・豆・きのこ」とのことだが、とらなければならないミネラル等を含んでいる食材でもある。昔は残す場合はおかわりができないというやり方だったが、今の給食はどのようなシステムで配食しているのか。

事 務 局 ： 小学校では一旦全部食べるようにと指導しているが、中学校では本人の申告に応じて少し量を減らすなど、個人に合わせた量を食べられるようにしている。

アンケートの結果では満足できる量を食べているように見えるが、実際に飯缶の中に給食が残っているのかというところまではわからないので、現地に行って確認してみたいと思っている。

教 育 長 ： 成長してくるとおかわりが恥ずかしいという理由もあるかもしれないと内部でも話していた。実際に現地へ行っての確認は必要だと思っている。

以上、1件について報告

○ 教育指導部長諸報告

(1) 社会教育委員会議の開催について

社会教育委員会議の開催について報告した。

教 育 長 ： 先ほど小林委員からもあったように、就学前の子どもたちへの対応が最も大切であるという中で、家庭教育について課題があるということが見えてきた。対応策を考えていかなければならない。

以上、1件について報告

○ 閉 会 午後3時20分